

平成23年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成23年4月1日～平成24年3月31日

平成24年 8月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

平成23年度 加西市教育委員会 主要施策

大項目	重点目標	実践目標	担当課
新しい時代を切り拓くこころ豊かな人づくり	1 人間形成の基礎をはぐくむ就学前教育の充実	1 「生きる力」の基礎をはぐくむ乳幼児教育の充実を図る	こども未来課
		2 発達や学びの連続性を保つ連携を推進する	学校教育課 こども未来課
		3 健やかな成長を支え持続的に発展する幼保施設運営計画の推進を図る	こども未来課
	2 生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進	1 知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図る	学校教育課
		2 自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」をはぐくむ	学校教育課
		3 運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」をはぐくむ	教育総務課 学校教育課
		4 一人一人の教育的ニーズに対応する特別支援教育の充実を進める	学校教育課 総合教育センター
	3 命や人権を大切にす る心の育成、青少年 健全育成の推進	1 お互いの人権を尊重しあい共生する心の育成を図る	学校教育課
		2 子どもたちの内面理解に基づく生徒指導、教育相談の充実を推進する	学校教育課 総合教育センター
	4 子どもたちが安心して学べる学校園の整備と保護者や地域から信頼される学校づくりの推進	1 児童、生徒が安全安心な教育環境で学習ができるよう学校の耐震化の促進、安全防災にかかる施設の整備充実を図る	教育総務課
		2 特色ある学校園づくり、開かれた学校園づくりを推進する	学校教育課
		3 教職員の資質能力の向上を図る	学校教育課 総合教育センター
	5 家庭・地域・学校園が一体となった子どもたちの教育の推進	1 家庭・地域・学校園がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもたちの教育に取り組む	自己実現サポート課
		2 多様な体験活動の工夫による青少年育成活動を推進する	自己実現サポート課
		3 地域と一体となった青少年健全育成活動を推進するとともに、家庭、地域の教育力の向上に取り組む	学校教育課 総合教育センター
	6 市民だれもが生きがいをもって地域社会に参画する生涯学習社会づくりの推進	1 市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進める	自己実現サポート課
		2 市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進める	自己実現サポート課
		3 文化・芸術活動の推進、文化の薫り高い環境の整備充実を図る	自己実現サポート課
		4 豊かな歴史文化遺産の保存と活用に市民協働で継続的に取り組む	自己実現サポート課
	7 教育予算の拡充及び教育委員会機能の充実	1 教育予算の拡充に努める	教育総務課
		2 教育委員会の機能の充実と活性化を図る	教育総務課

重点目標	1	人間形成の基礎をはぐくむ就学前教育の充実
------	---	----------------------

実践目標	1	「生きる力」の基礎をはぐくむ乳幼児教育の充実を図る						
<p>●取組1 「幼児期にふさわしい教育の充実を図る教育環境の整備と指導実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度策定の「加西市幼児教育プログラム」方針にもとづく実践(5か年事業初年度) <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に必要な匠技台等の遊具類整備を図った。 ・伝統太鼓など伝統芸能を取り入れた各園(所)の地域力を生かした特色ある取組を実施した。 ・公立幼稚園・保育所の研修会を18回開催した。 ・公開保育を年1回以上実施したほか専門家等の指導を受け専門性の向上に努めた。 ・園だより等の発刊を行うことで保護者・地域への情報発信に努めた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践事例情報のデータベース化を進め、関係者で実践状況把握と検証の共有を進める必要がある。 ・私立園等への実践普及を行う。 		担当課						
		こども未来課						
		難易度:A						
		達成度						
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> </table>						
<p>●取組2 「発達の過程に即した「協同する経験」の工夫による人とかかわる力の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に即した「ことば」の伝達で、人とかかわる力を育成 ・個を生かし、発達に応じた集団づくりへの援助 ・体験的環境学習を通じて他者への思いやりや知的好奇心、意欲等を育成 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各園(所)で「読み聞かせ」や「お話会」を実施した。 ・遊びを通じた「学びの場」を創出し、環境構成・援助の工夫を講じた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連性や連続性をもった偏りのない多様な体験活動を継続して実践する必要がある。 ・個々の特性を把握した計画づくりと検証を行う必要がある。 ・指導者の視点強化を深める。 		担当課						
		こども未来課						
		難易度:B						
		達成度						
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> </table>						
<p>●取組3 「個々の園児の実態や特性に応じたきめ細かな特別支援教育の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の実態等に応じた特別支援教育の充実 ・保護者や関係機関との情報交換と支援体制の確立 ・定期的な研修会の開催による教職員の指導力向上 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする園児13人に対し、7人の加配職員(1:1～2:1)を配置した。 ・特別支援教育担当者会を年6回開催し、特別支援学校等の主催する研修への参加を促した。 ・総合教育センターならびに各病院等の関係機関と連携をとり、情報共有化と相談体制の構築に努めた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修時間の確保を必要とする。 ・登降園時等を活用した保護者との交流を図り、保護者との信頼関係を構築する。 ・特別支援教育担当者会の定例開催と相談窓口の柔軟な対応に努める。 		担当課						
		こども未来課						
		難易度:A						
		達成度						
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> </table>						

<p>●取組4 「健康な生活の基本となる「食を営む力」の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培収穫体験等の体験活動を通じた食育推進・・・園内菜園や一人一鉢で野菜を栽培・旬の食材を園で食す ・端午の節句や雛祭り等の行事食、伝統料理など伝統文化に触れる体験を实践 ・食育の年間計画を作成し、試食等による保護者評価の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培収穫体験活動を通じた食育を全園(所)で実施した。 ・柏餅や蛤汁等の行事食等を提供した。 ・給食担当で構成する給食研究会を月1回開催し、献立検討等の研修を行った。また、各園では、保護者、園児を対象に食育講座を1～2回開催した。 ・献立表の月1回発行、給食展示、試食会など食育に関する情報を提供し保護者評価を受けた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する情報や機会を定期的に提供し、保護者の食に対する関心喚起を図る必要がある。 	<p>担当課</p> <p>こども未来課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1327 629 1508 801"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組5 「幼児教育に関わる専門性の向上を図るための研究・研修活動の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究園を指定し、その成果の共有と普及 ・先進地実践研究やブロック別研修参加による研究機会の充実 ・評価制度導入による職員資質向上の取組 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市指定の研究園として西在田幼稚園を指定し、「心と体をはずませ、生き活きと活動する子どもを目指して」をテーマに取組を行った。 ・市保育所連盟公開保育の指定園に九会保育園・白竜こども園の2園を指定し、研究保育を公開した。 ・幼保合同研修会を年10回開催し、公開保育を12園で15回開催した。 ・職員研修会ならびに担当者会を年11回開催した。 ・幼稚園・幼児園においては個人評価、園評価を実施し、保育園においても評価シートを作成した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果等の情報共有化と共通理解ならびに私立各園との連携普及を行う。 ・研修参加等に伴う園(所)長の指導力を発揮することで施設毎での協力体制づくりを行い、各園(所)の一体的取組と研修意識の向上を図る。 ・少子化に伴い、職員数の減少、非正規化の増加の中、保育資質の向上が進められているが、更に行政機関として支援する必要がある。 ・自己評価による課題解決方法など適切な評価ならびに助言者の確保を図る。 	<p>担当課</p> <p>こども未来課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1327 1496 1508 1664"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	2	発達や学びの連続性を保つ連携を推進する	
<p>●取組1 「教育部門と福祉や保健部門とのネットワークを活かした支援の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する相談等の療養部門とのネットワークを活かした連携による支援策の充実 ・子どもの発達や特性について専門機関と連携し継続的な支援 ・園・保護者・関係機関との情報の共有化 ・支援を要する幼児ごとの支援ファイルを作成し、的確な連携と支援の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市市民福祉部(児童療育室、社会福祉課等)と連絡調整会議を随時開催し、計67人の子どもを対象に連携を図った。 			<p>担当課</p> <p>こども未来課</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「きずな」「にこにこクリニック」など市内外の支援施設との連携を図り、幼児の相談支援を実施した。 ・発達に応じて計27人の支援ファイルを作成し、関係する小学校と情報共有を図った。 	難易度:A
	達成度
●課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識習得等による職員資質向上と複数の観察者による客観性を保つ必要があり、また個人の発達に応じた経過を把握していく必要が生じる。 ・個人情報の守秘を図る。 	
●取組2「家庭・地域との連携や幼保間、幼保と小学校間の連携・交流の充実による小1プログラムの軽減」	担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放、子育て相談など親子参加事業を実施 ・幼稚園、保育所(園)、幼稚園の取組の公開及び広報活動の実施 ・公立幼稚園児と小学校児童の交流や連携活動の充実 ・幼保職員と小学校教職員の合同研修を実施 	学校教育課 こども未来課
●成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放を保育園・幼稚園が全園で実施し、九会幼稚園など幼稚園3園でも実施した。子育て相談等は、個別に随時実施した。 ・幼稚園ウィーク(10月)にオープンスクールとして取組を行った。保育所公開保育は、市広報で周知を図り全園で実施した。 ・STARTプログラム合同研修2回ならびに夏季教育講演会1回を開催した。 	
●課題	難易度:B
<ul style="list-style-type: none"> ・STARTプログラム・・・学びの芽生えから自覚的な学びへの接続、成果をもとにして4歳児まで拡大を検討する。 ・幼小相互の共通理解と協力体制の構築が必須であり、相互の目標やねらい等を設定した指導案を教職員間で調整のうえ次回交流に反映する必要がある。 ・子どもが主体となる計画を幼小教職員間で立案することが望まれる。 	達成度

実践目標	3	健やかな成長を支え持続的に発展する幼保施設運営計画の推進を図る
●取組1「互いに学びあう機会が生れる集団活動の工夫」	担当課	
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別クラス編成を基準とし、能動的意欲を高めあえる環境整備の充実 ・子どもの成長に対応した情動理解力を備えた職員養成と研究推進 	こども未来課	
●成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の検討会を幼稚園、幼児園の計9園で開催した。 ・幼児教育プログラムの導入を契機に職員が共通課題をもち研鑽と取組を実施した。 		
●課題	難易度:B	
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを中心とする生活の中で、社会性や人間と関わる力を育てる環境づくりと保護者の理解が必要である。 ・私立園にも実践普及に向けた検証活動と呼びかけが必要である。 	達成度	
●取組2「安全で安心な施設整備の推進と多様な学びの機会の創出」	担当課	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育手法や技術を実践できる保育・教育環境の整備と工夫を実施 ・個々の発達段階やニーズに対応した多様な保育環境の充実 	こども未来課	
●成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育プログラムに基づき、必要用具整備や体育用具の点検を行った。 ・子どもの体力並びに意欲の向上を図った。 		

<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具整備等に伴う財政支援が必要である。 ・専門的な指導者の確保とともに財政支援も必要である。 ・重要な幼児期教育現場における教職員の人員不足問題の解消と適正配置が必要である。 ・保護者、地域に対してのプログラム実践状況の発信を行う。 	難易度:B
	達成度
	<input type="checkbox"/>
	<input checked="" type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>
<p>●取組3 「幼保施設の運営への保護者や地域住民の意見を反映」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格形成に資する地域の伝統文化・暮らしの知恵の活用 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験教育として地域住民等の協力のもとに泉幼稚園のいも栽培、こよりづくり、太鼓演技を実施した。北条幼稚園では、町なかの雛祭りや五月人形祭り見学など2園で実施した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民との登降園時を利用した情報交換等による地域人材等の情報を収集し、人材や伝統文化の掘り起しによる活動の取組を図る。 ・園活動情報を随時発信する。 	担当課
	こども未来課
	難易度:B
	達成度
	<input type="checkbox"/>
<p>●取組4 「幼保再編や民営化の検討などにおける市民合意の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保一体化等再編計画について十分な説明と情報提供の推進 ・「加西市幼稚園・保育所 統合・民営化基本方針」に基づく合意形成と施設の安全運営の徹底 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編計画該当地区にて統合説明会を4回開催した。また、地元区長等との面談を14回行い意見交換等の調整を行った。 ・施設分離型の日吉幼稚園を開設した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時説明会の開催と情報共有を行うことで保護者観点からの課題を抽出する。 ・保護者や地域区長等と幼保再編、統合に向けた合意形成を図る。 	担当課
	こども未来課
	難易度:A
	達成度
	<input type="checkbox"/>

※ 達成度の表示については、横軸:難易度、縦軸:成果として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、成果は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、成果3

4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・「加西市幼児教育プログラム」方針にもとづく実践や乳幼児個々の発達ならびに特性等に応じたきめ細かな対応など、家庭・地域ならびに小学校と連携した就学前教育の充実に向けての幼保一体化の取組が着実に進められている。</p> <p>・少子化ならびに施設老朽化等が進むなか、幼保一体化による教育環境の整備充実を急ぐ必要がある。また、職員資質の向上並びに教育環境整備に伴う財政支援も併せて喫緊の課題であり、一方で地域や保護者ならびに私立保育園(所)等との相互理解など合意形成が求められる。</p> <p>・地域の特性を活かした取組において、保護者以外の住民(高齢者等)との交流や知識の伝授等の協力を受けており、今後も継続した取組を行っていく。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<ul style="list-style-type: none"> ・着実な取り組みがなされていると思われる。特に、家庭・地域との連携や幼保間、幼保と小学校間の連携、交流の取り組みが活発である点が評価される。 ・就学前教育の重要性を考えると、もう少し加西市の特色が感じられる取り組みが必要ではないか。 ・情報の共有は重要であるので、データベース化に取り組む必要がある。 	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	2	生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進
------	---	---------------------

実践目標	1	知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図る						
<p>●取組1 「基礎基本の定着・言語活動の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中特別支援学校における教育課程の指導助言の充実と承認 ・市教育委員会指定学習指導研究発表校3校による中間発表の実施及び指導助言 ・朝(業前)学習タイム週4回設定と特色ある取組の推進 ・学校図書 of 充実と活用および理数備品の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を分析し、国際社会に通用する知識基盤社会の構築にむけた教育課程の編成ができた。各校地域とともに歩む特色ある学校づくりの運営における編成の助言ができた。 ・算数科小学校2校指導助言および道徳教育中学校1校指導助言を適切に行った。さらに、要望があった学校には授業参観・研究協議を踏まえ、国・県・市の方針を適切に指導した。 ・すべての学校において週4回の朝の学習タイムを設定させ、各校特色のある15分間の学習を展開している。 ・文部科学省より読書活動推進校の指定を小学校1校に指定し、図書館の整備充実を図り、魅力ある読書活動の推進を行った。「新規」 ・備品購入配当による理科備品整備率は、小中学校で24.4%、算数備品整備率は、25.9%で高い充足率を維持することができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は教育の取組を積極的にすべてのツールを使い公開しているのだが、すべての方々に届いているとは言えない状況がある。さらに方策を見出す必要がある。24年度の重要課題として扱う。 ・学校図書館の活用を図りながら、日常生活に読書のあるスタイルを定着させるための教育活動を推進・展開しているのだが、図書(新刊本等)の整備率がすべての学校において低い。何とか予算に反映することができるよう引き続き事務局として努力する必要がある。 ・少子化に伴い、単学級の小学校の増加及び中学校の教師数の減少に対し、授業力向上策を指導する必要がある。 		担当課						
		学校教育課						
		難易度:A						
		達成度						
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> </table>						
担当課								
学校教育課								
<p>●取組2 「個に応じたきめ細かな指導の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習システム推進教員の活用による少人数指導・複数指導の推進 ・兵庫型教科担任制の推進 ・スクールアシスタント、ヤングアドバイザーの配置によるより一層の個に応じた指導の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の配置基準による非常勤配置実施計画を各学校から申請させ、県に積極的に要望した結果、児童生徒にとって有益な人員配置を受けることができ、多様な指導を行うことができた。 ・小学校11校中9校で兵庫型教科担任制を実施した。ただ、2校については5・6年生とも単学年であり、24年度実施に向けて教育課程の編成と時間割は整備できている。 ・より一層、個に応じた指導の充実を図るためのスクールアシスタント・ヤングアドバイザー事業を実施し、小学校7,920時間、中学校2,100時間の配備を行い、きめ細かな指導を充実させた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県推進事業の「兵庫型教科担任制」は、中一ギャップを解消できる重要な取組である。た 		担当課						
学校教育課								

だ、現場としては、時間割が固定化し、天候の関係で調整が必要な行事等に影響がある。また、教師個人の突発的な対応においてやや弊害がでる。

- ・非常勤講師、臨時講師の資質の向上に取り組む必要がある。
- ・少人数指導の指導法については、更に研究が必要である。

・講師登録は随時行っているが、非常勤およびアルバイト人員を見つけることが喫緊の課題であり、依頼する時期も限定されており困難をきたしている。他市とも連携をしているが、個人交渉の大半は土・日であり、課員のメンタルヘルスの確保に課題が生じているのが現状である。

難易度:A

達成度

実践目標	2	自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」をはぐくむ																
<p>●取組1 「道徳教育の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体に位置つけた道徳教育の推進 ・兵庫版道徳教育副読本等を活用した道徳の時間の充実「新規」 ・家庭や地域と連携した道徳教育の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領(平成23年度から本格実施)の掲げる重点課題の一つである「道徳教育」を充実させるため、校長の方針のもと、道徳教育推進教師を中心として、各校の道徳教育推進全体計画及び年間指導計画の見直しを行い、効果的な教育活動を展開した。 ・兵庫版道徳教育副読本が兵庫県教育委員会によって作成され、県下全小中学生に配布された。本副読本を道徳の時間や朝の学習タイム、家庭などで活用することによって、先人の生き方や自然、伝統や文化等に触れ、道徳的価値やそれに基づいた人間としての在り方・生き方について自覚を深め、豊かな心の基盤となる道徳性を養うことができた。 ・兵庫県教育委員会指定「道徳教育拠点校事業」において、北播磨圏域の小学校で唯一、下里小学校が拠点校として指定され、兵庫版道徳教育副読本の活用など、道徳教育の推進における拠点校としての研究を行った。その研究成果について、11月11日に道徳教育研究発表会を開催し、市内外の教職員に効果的な道徳教育の在り方のモデルを示すことができた。 ・兵庫版道徳教育副読本を家庭に持ち帰り親子で読んだり、オープンスクールにおいて道徳の時間を公開したりすることによって、学校と保護者が連携し、日常生活に根ざした道徳性を養う取組を行うことができた。また、地域住民との交流や連携によって、規範意識や社会生活上のルールを身につけることができるような場を設け、道徳性を養うことに効果を上げた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間等で育んできている道徳的心情、判断力、実践力について、さらに、実生活の場で道徳的実践として行動に表すことができるように、より体験的な活動の中で、道徳性の育成を進める必要がある。そのために、環境体験学習(小学3年)、自然学校(小学5年)、トライやる・ウィーク(中学2年)などの兵庫型「体験教育」のさらなる充実を図ることが求められる。 ・地域との連携によって学習活動を展開しようとするとき、児童生徒が消極的な行動を見せることが多い。そこで、道徳性を育む上で、ふるさと加西に対する認識を深め、児童生徒が自ら地域社会の一員として積極的、実践的、意欲的な行動ができるような授業プランを構想し、指導していく必要がある。 			<p>担当課</p> <p>学校教育課</p>															
			難易度:B															
			達成度															
<ul style="list-style-type: none"> ・加西市教育委員会が指定し、年3・4校ぐらいの割合で学習指導研究発表会を開催している。道徳教育に関しては、平成22年度・北条小学校、平成23年度・下里小学校(道徳教育推進拠点校事業と兼ねて開催)が研究を行ってきた。平成24年度に予定している善防中学校も含め、今年度も、年間1回は道徳教育を研究テーマとした研究発表会を開催し、加西市における道徳教育の水準の向上を図っていく必要がある。 			<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	3	運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」をはぐくむ															
<p>●取組1 「体力の向上・健康教育、食育の推進・充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校における体力測定および推進校における体力プログラムの実施 外部講師の招聘等による健康教育(喫煙・薬物等の防止教育)の推進 地域や外部団体との連携における食育の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小・中学校において5月頃をめどに体力測定を行い、各校児童生徒の体力の実態を調査した。そして、学校教育の中で計画的・継続的な体力づくりに取り組み、特に、兵庫県教育委員会指定「体力・運動能力向上推進校」に指定された善防中学校においては、その取組によって、長座体前屈+7.84cm、反復横跳び+1.77回、立ち幅跳び+4.35cm、ハンドボール投げ+0.94cm、握力+0.99kg、上体起こし+0.6cm(数値は4月測定結果から11月測定結果の伸び率の平均)と体力の向上を果たすことができた。 保健(小学校)や保健体育(中学校)の時間等において、加東健康福祉事務所や学校薬剤師などの外部講師を招聘するなどして、喫煙、飲酒、薬物乱用がもたらす身体への悪影響について学び、健康への関心を深めた。 3年生の環境体験学習において、地域人材や外部講師(農業改善センターなど)を活用した農業体験に市内7校の小学校が取り組んだ。栽培をした野菜や米を利用して、保護者や地域住民と食文化への関心を深める学習を行い、食育を通じた健康な身体を育もうとする心情を養うことができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の体力の減退は、全国的にも注目されている課題である。加西市においても柔軟性などに課題がある学校も多く、例えば、学校づくり応援事業を活用した富田小学校のヨガ教室の開催のように、各校における児童生徒の実態からみえる課題を重点課題と位置づけ、それらを解決するような具体的な取組が求められる。 健康についての専門的な知識を持った人材の確保や、保護者や地域住民も参加できる学習の場(例えば、オープンスクールや学校参観日など)の設定など、さらに効果をあげる方策を講じる必要がある。 平成23年度、加西市における食育推進計画の作成が進められてきた。学校教育においても平成24年度に提示予定の加西市食育推進計画をふまえ、児童生徒の実態を鑑みながら体験的な学習内容を設定していく必要がある。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>難易度:A</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1316 1276 1498 1451"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「学校給食事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校の完全給食実施に向けた、新学校給食センター建設事業計画の推進 地産地消を進めながら、安全安心な給食を実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度に新学校給食センターの設計委託費を予算化、平成25年度工事、平成26年1月給食実施予定。 地元農協と協力し、加西産のキヌヒカリとヒノヒカリを100%の割合で学校給食に使用。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学校給食センターで、3中学校と5小学校分の給食調理を行い、施設の集約と調理の効率化を図る。そのためには、既設調理設備・備品及び調理員の再配置を行う必要がある。 米飯については、全て加西産の米を利用できているが、野菜の使用については、一部使用であるため、今後の使用量を増やすためには、種類・値段及び流通について細かな調整が必要となる。 		<p>担当課</p> <p>教育総務課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1316 1881 1498 2063"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	4	一人一人の教育的ニーズに対応する特別支援教育の充実を進める												
<p>●取組1 「支援体制および特別支援学校のセンター的機能の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用(特別支援学校・教育支援部が作成指導) ・通常学級に在籍している児童生徒の個別の教育支援計画・指導計画(IT化)の作成「新規」 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実(各種研修会の充実) ・保幼小中特別支援教育コーディネーター・ネットワーク会議での支援ファイルを通じた引継ぎ ・関係機関(市社会福祉課、県児童相談所、市立加西病院、医療福祉センターきずな等)との連携 ・スクールアシスタントの市内全小中学校配置による個に応じた支援の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・指導計画等を活かした、きめ細かな指導の実践を行うことができた。 ・通常学級に在籍している児童生徒においても、個別の教育支援計画・指導計画のIT化を進めることで、より多くの特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制を整えることができた。 ・スクールアシスタントと学級担任、教科担任等、チームとして支援していく体制を確立することができた。 ・総合教育センターでの発達支援プログラム(親子参加型)の充実により、児童生徒ならびに保護者支援を行うことができた。 ・各種関係機関、市福祉行政各課、保幼小中の連携による支援ファイルを中心に、個に応じた支援の積み重ねをすることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター、スクールアシスタント等の更なるスキルアップ研修等の充実 ・個に応じたきめ細かな指導にあたるスクールアシスタントの配置時間数の増加と各校配置人数の増加を図るための予算要求 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p>												
		難易度:A												
		達成度												
		<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組2 「特別支援教育支援体制の整備と教育相談環境の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校を巡回訪問し、特別な配慮が必要とされる児童生徒の集団生活状況を把握し、手立てや方法のための支援 ・発達相談・発達検査を実施し、Dr診断、ケース会議等、専門医療機関との連携 ・発達支援プログラムを実施し、児童生徒の発達状態によりそい、専門教育機関との協働による専門的なトレーニングの実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での支援のあり方について内省を図り、環境を整備する必要性へ気づきの促しにつながった。 ・専門医療・教育機関との連携により、総括的評価のあり方について話し合うなど、様々な支援形態を導入し、保護者学習会、教育講演会など積極的支援を実現することができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができるよう、個々の学習・行動特性・運動能力など、多面的総合的に発達状態を把握し、教職員に共通理解を求めていくことが重要である。そのためにも、福祉・医療及び教育の各機関との連携をさらに深め、「つなぐ」支援体制の構築が必要である。 		<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p>												
		難易度:B												
		達成度												
		<table border="1"> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・各校校内研修及び市指定学習指導研究中間発表会及び本発表に向けた適切な指導助言を行い、言語活動を充実させるための取組と系統性を重点においた教育活動を展開できた。 ・念願であった中学校の給食完全実施に向けて、計画が進みだしたことは評価できる。地産地消について、米飯給食は良く進んでいるが、野菜については今後対策が必要であるためやや不十分である。 ・校内特別支援教育推進委員会の充実を図るべく、市内2人配置の学校生活支援員を活用し、巡回指導による各校コーディネーターのスキルアップを図るとともに、個に応じた指導計画・教育支援計画を作成し、加西市の特別支援教育を充実させた。また、総合教育センターでの発達支援プログラムは他市には例をみない親子参加型で実施できた。 ・特別支援教育における支援体制が、専門医療・教育機関等との連携により整備されつつあるが、さらに、教職員の共通理解を深め、支援ファイル等を用いた支援体制の構築が必要である。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<ul style="list-style-type: none"> ・特に、特別支援教育の充実について、総合教育センターでの発達支援プログラムの充実などがなされており、評価される。 ・実践目標1 取組1の国際社会に通用する知識基礎社会の構築にむけた教育課程の編成とは、具体的にどのような事を言うのか 今後の評価のときには、明確にして頂きたい。 ・図書(新刊本等)の整備率が全学校とも低いとあるが、具体的にどの程度なのか、明確にしていきたい。 ・道徳教育については、多様性に応じた教育が必要であろう。 ・教育委員会の業務の中でも大きなウエイトを占める部分であるが、県教育委員会の事業を実施することに対して、自己評価を高くする傾向があるので、市教育委員会独自の事業を如何に企画したり、実施したりすることに自己評価を向ける必要があるのではないか。 ・学級編成の問題は学校教育の部分では基本的な要素であり、本年度より実施された、学級編制の自由化等への事前準備や取組がない。 	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	3	命や人権を大切に作る心の育成、青少年健全育成の推進
------	---	---------------------------

実践目標	1	お互いの人権を尊重しあい共生する心の育成を図る																		
<p>●取組1 「教育活動全体を通じた人権教育の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画と年間カリキュラムの調査・点検 ・人権感覚を磨くための教職員研修の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の学習指導要領の改訂の趣旨にそった、人権教育の全体計画の見直しを行い、市内小中特別支援学校における調査・点検は100%実施できた。 ・児童生徒のかかえる学習面での困り感などに対応するため、少人数加配教員等を配置し、きめ細かな指導を行った。 ・市町組合教育委員会指導主事等人権教育研修会を受けた市内人権教育担当者研修会の開催や兵庫県人権教育研究大会東播磨大会への市内全16校からの参加など、人権課題に対する意見交流や実践発表を行うことによって、教職員の人権感覚を磨く機会とすることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重することに対し、児童生徒がより身近に感じ、実践していくことができるような授業内容やカリキュラムづくりの工夫が一層求められる。 ・学校と地域との連携、教育委員会と関連部署との連携をより一層図ることによって、実生活の場で生きる人権感覚を身につけていくことが必要である。 		担当課	<p>学校教育課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	
<p>●取組2 「共生社会の構築に向けた交流・体験の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実をはかり、共生社会の構築に向けた取組の推進 ・子ども多文化共生サポーター派遣事業による外国人児童生徒の支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に外国語(英語)活動が導入されたことに伴い、中学校ALT等の活用を小学校へと拡充していくことによって、児童に外国語への認識を深めさせると共に、外国の文化に興味や関心を持たせることができた。 ・子ども多文化共生サポーターを、小学校2校(ポルトガル語、スペイン語に対応)、中学校1校(ポルトガル語に対応)に配置し、年間32日～64日(1日4時間の支援)の派遣を行い、多文化共生社会の実現に向けて効果を上げた。 ・自治参画課の協力を得ながら、兵庫県教育委員会事務局人権推進課による「外国人児童生徒に係る就学支援ガイダンス」を加西市で開催し、2件の高校進学等に関する相談を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題等に対応するきめ細かな指導体制の確立のためには、各校における少人数加配教員の配置は十分とは言えないため、県への要望とともに、市単独事業としての支援員の確保が必要である。 ・「就学支援ガイダンス」等の事業に対する認知度が低く、相談者・参加者が少なかった。今後、このような事業に対する広報活動の充実を図ることで、事業実績の向上を図る必要がある。 		担当課	<p>学校教育課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	
<p>●取組2 「共生社会の構築に向けた交流・体験の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実をはかり、共生社会の構築に向けた取組の推進 ・子ども多文化共生サポーター派遣事業による外国人児童生徒の支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に外国語(英語)活動が導入されたことに伴い、中学校ALT等の活用を小学校へと拡充していくことによって、児童に外国語への認識を深めさせると共に、外国の文化に興味や関心を持たせることができた。 ・子ども多文化共生サポーターを、小学校2校(ポルトガル語、スペイン語に対応)、中学校1校(ポルトガル語に対応)に配置し、年間32日～64日(1日4時間の支援)の派遣を行い、多文化共生社会の実現に向けて効果を上げた。 ・自治参画課の協力を得ながら、兵庫県教育委員会事務局人権推進課による「外国人児童生徒に係る就学支援ガイダンス」を加西市で開催し、2件の高校進学等に関する相談を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題等に対応するきめ細かな指導体制の確立のためには、各校における少人数加配教員の配置は十分とは言えないため、県への要望とともに、市単独事業としての支援員の確保が必要である。 ・「就学支援ガイダンス」等の事業に対する認知度が低く、相談者・参加者が少なかった。今後、このような事業に対する広報活動の充実を図ることで、事業実績の向上を図る必要がある。 		担当課	<p>学校教育課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	
<p>●取組2 「共生社会の構築に向けた交流・体験の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実をはかり、共生社会の構築に向けた取組の推進 ・子ども多文化共生サポーター派遣事業による外国人児童生徒の支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に外国語(英語)活動が導入されたことに伴い、中学校ALT等の活用を小学校へと拡充していくことによって、児童に外国語への認識を深めさせると共に、外国の文化に興味や関心を持たせることができた。 ・子ども多文化共生サポーターを、小学校2校(ポルトガル語、スペイン語に対応)、中学校1校(ポルトガル語に対応)に配置し、年間32日～64日(1日4時間の支援)の派遣を行い、多文化共生社会の実現に向けて効果を上げた。 ・自治参画課の協力を得ながら、兵庫県教育委員会事務局人権推進課による「外国人児童生徒に係る就学支援ガイダンス」を加西市で開催し、2件の高校進学等に関する相談を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題等に対応するきめ細かな指導体制の確立のためには、各校における少人数加配教員の配置は十分とは言えないため、県への要望とともに、市単独事業としての支援員の確保が必要である。 ・「就学支援ガイダンス」等の事業に対する認知度が低く、相談者・参加者が少なかった。今後、このような事業に対する広報活動の充実を図ることで、事業実績の向上を図る必要がある。 		担当課	<p>学校教育課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	
<p>●取組2 「共生社会の構築に向けた交流・体験の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実をはかり、共生社会の構築に向けた取組の推進 ・子ども多文化共生サポーター派遣事業による外国人児童生徒の支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に外国語(英語)活動が導入されたことに伴い、中学校ALT等の活用を小学校へと拡充していくことによって、児童に外国語への認識を深めさせると共に、外国の文化に興味や関心を持たせることができた。 ・子ども多文化共生サポーターを、小学校2校(ポルトガル語、スペイン語に対応)、中学校1校(ポルトガル語に対応)に配置し、年間32日～64日(1日4時間の支援)の派遣を行い、多文化共生社会の実現に向けて効果を上げた。 ・自治参画課の協力を得ながら、兵庫県教育委員会事務局人権推進課による「外国人児童生徒に係る就学支援ガイダンス」を加西市で開催し、2件の高校進学等に関する相談を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題等に対応するきめ細かな指導体制の確立のためには、各校における少人数加配教員の配置は十分とは言えないため、県への要望とともに、市単独事業としての支援員の確保が必要である。 ・「就学支援ガイダンス」等の事業に対する認知度が低く、相談者・参加者が少なかった。今後、このような事業に対する広報活動の充実を図ることで、事業実績の向上を図る必要がある。 		担当課	<p>学校教育課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	

実践目標	2	子どもたちの内面理解に基づく生徒指導、教育相談の充実を推進する	
<p>●取組1 「子どもたちの内面理解を図り、学校園全体で生徒指導を推進する体制の整備充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導研修会等の開催による教職員の不登校対策等に関する指導力向上 ・学校と連携し、校内の環境整備、生徒指導體制の整備 ・学校・警察・総合教育センター連絡会や中学校生徒指導担当者会、関係機関や専門機関との連携を推進 ・スクールカウンセラーによる教育相談に加え、総合教育センターでの電話相談、面接相談、夜間教育相談の開設により、相談体制の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導研究協議会をはじめ、年間に5回の研修会を開催し、教職員の指導力向上が図れた。 ・学校・警察・総合教育センター連絡会や中学校生徒指導担当者会、ケース会議等を年間に15回開催し、小中学校間における生徒指導及び関係機関等との連携ができた。 ・各学校や社会福祉課、中央子ども家庭センター等との連携が図れ、個々のケースに応じた対応ができた。 ・教育相談の充実により相談件数が1,756件となり、問題の早期解決につながるケースが増加した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校における生徒指導対応に温度差があることから、共通認識を図り、系統的な指導ができるようにする必要がある。 ・中学生の不登校出現率が高い状況が続いていることから、今後も個々に応じたきめ細かな対応を組織的に行っていくことが重要である。 		担当課	
		総合教育センター (学校教育課)	
		難易度:B	
		達成度	

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・各校での人権教育全体計画の作成と年間カリキュラムの調査・点検は100%の実績である。豊かな体験を通じた豊かな人権感覚を養うふれあいの場づくりを積極的に教育課程の中に位置づけている。 ・外国語活動を5・6年生で充実させ、ALT・外国語講師を有効に活用できた。さらには、外国語担当者会を小中学校合同で行い、授業研究及び学校参観日・オープンスクールに外国語活動も公開し、保護者・地域への理解に努めた。 ・小中連携をさらに推進し、小中学校の系統的な生徒指導體制を構築することが大切である。 ・夜間教育相談の新設などにより、教育相談の充実が図れた。今後も不登校児童生徒へのきめ細かな対応を継続し、学校と関係機関との連携による組織的な取組が重要である。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実が図られている点が評価される。 ・小学校と中学校との連携による生徒指導體制の構築は、重要な課題であり、今後、活発に展開することが必要である。 	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	4	子どもたちが安心して学べる学校園の整備と保護者や地域から信頼される学校づくりの推進
------	---	---

実践目標	1	児童、生徒が安全安心な教育環境で学習ができるよう学校の耐震化の促進、安全防災にかかる施設の整備充実を図る	
●取組1 「耐震化事業」		<p>・耐震化工事5件・・・北条中学校地震改築工事、泉中学校・泉小学校・富合小学校・九会小学校体育館地震補強工事、耐震化工事設計3件・・・宇仁小学校地震改築工事、北条中学校・日吉小学校体育館地震補強工事設計委託、木造校舎応急耐震補強工事</p> <p>●成果</p> <p>・平成23年度に耐震化工事予定であった7棟が完成したことで、全体棟数50棟の内35棟について耐震性が確保できたため、耐震化率は70%になった。</p> <p>・宇仁・富田・西在田小学校の木造校舎応急耐震補強工事により、耐震化工事完成までの間において、地震による倒壊を防ぐことが出来る。</p> <p>●課題</p> <p>・木造校舎の耐震化については改築の方針となったため、設計から工事完成までの事業年度は3ヵ年となる。従って、現時点の耐震補強事業量との兼ね合いで、全体事業の完成年度は平成28年度となる。</p> <p>・耐震補強工事と大規模改造工事を同時施工し、経費の軽減と教育環境の改善を図る。</p>	担当課
			教育総務課
			難易度:A
			達成度
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
●取組2 「教育環境改善・安全対策工事」		<p>・北条中学校地震改築外構工事、善防中学校グラウンド暗渠排水工事、善防中学校フェンス改修工事、加西中学校防球ネット整備工事、日吉小学校防球ネット修繕工事、九会小学校トイレブース改修工事、北条東小学校プール塗装工事、小学校遊具改修工事</p> <p>●成果</p> <p>・北条中学校のグラウンド下に雨水貯留槽400m³を設置したことにより、下流域への雨水流量調整が可能となった。フェンス・防球ネット・遊具整備及びプールの塗装により、教育環境の安全と水質保全が確保された。暗渠排水整備により、雨天後のグラウンド状態が改善された。</p> <p>●課題</p> <p>・耐震補強工事を行う施設の改修は、補強工事と同時施工する計画で順次施工しているが、それ以外の施設も老朽化が進んでおり、設備を含んだ改修工事件数も多く有り、工事費が多額となる。</p> <p>・修繕工事も、現場状況を把握し、計画的に施工することが必要である。</p>	担当課
			教育総務課
			難易度:B
			達成度
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>

実践目標	2	特色ある学校園づくり、開かれた学校園づくりを推進する	
●取組1 「特色ある学校づくりの推進」		<p>・ふるさと納税を原資とした、「加西学校づくり応援事業」とおし、市内全小中特別支援学校において、特色ある学校づくりの推進</p> <p>・各学校が児童生徒や地域の実態・歴史等を十分に踏まえ、より魅力ある学校づくりをめざし創意工夫をこらした特色ある取組の展開</p> <p>●成果</p> <p>・各校の特色ある取組をとおして、児童生徒の「生きる力」を育てることに繋がっている。</p> <p>・安全安心の学校づくりのためにスクールガードリーダーを採用し、年間108日間の活動を</p>	担当課
			学校教育課

行い充実を図った。 ・地域を巻き込み協力してもらいながらの活動が多く、そこに児童生徒の成長が見えるため、より地域に信頼される学校づくり・開かれた学校づくりに繋がっている。 ●課題 ・学校便りやプレスリリースをとおして各校の取組を紹介しているが、まだまだ広報しきれていない。 ・平成24年度で3年目を迎えるため、より学校の独自性をだす学校の主体的な教育活動推進を促すことで教育の一層の活性化を図る必要がある。			
			難易度:B
			達成度

実践目標	3	教職員の資質能力の向上を図る			
●取組1 「教職員の資質能力の向上」 ・県主催の各種研修会の案内を積極的に広報し、長期休業中を利用した理数教育推進に係る研修会への参加、道徳教育推進担当者による研修及び管理職研修への参加 ・人材育成を重点化し、新採用教員に対する研修を年間3回開催 ●成果 ・経験豊かな教師から若い教師に日々教科指導及び生活指導の在り方を伝授することにより、組織としての人材育成ができつつある。また、県主催の研修会参加により、県の教育施策の方向性が明確になり、兵庫の教育の水準を保持し、より重点化した加西の教育が推進できた。 ●課題 ・資質能力の向上は単年では成果が上がるものではない。継続して育成におけるポイントを明確にしたうえで、組織として活力ある人材育成を図る必要がある。			担当課		
			学校教育課 総合教育センター		
			難易度:A		
			達成度		
●取組2 「基礎研修・専門研修・社会体験研修など教職員のライフステージや能力専門分野に応じた研修の充実」 ・各小中学校の研究推進担当者会を開催し、小中連携の取組の現状をまとめ、今後の取組を検討 ・先進校から講師を招いた研修の実施 ・「協調学習」研究を通して学力向上を目指す教科研究を推進 ・教職員研修のアンケート調査により内容を検証し、平成24年度の開催講座数や応募方法の改善 ・総合教育センターの図書を整備し、教職員の研究活動環境の充実 ・幼小中の連携として、発達支援における継続的な個別の指導計画のプログラムを開発 ・教職員のメンタルヘルスのケアとして、総合教育センターの相談員が教職員を対象とした個々の悩み相談を実施 ●成果 ・各小中学校の研究推進担当者会を2回開催し、小中連携の取組の現状をまとめ、今後の取組を検討することができた。また、先進校より講師を招き講演会を開催できた。 ・教職員研修のアンケート調査により内容を検証し、平成24年度の開催講座数や応募方法の改善、更に、受講の事前調査を実施して講座開催時期等を調整した。 ・「協調学習」研究を通して学力向上を目指す教科研究を推進することができた。 ・「学籍ソフト」の開発や印刷機器利用サービスの提供により、校務軽減化を推進した。 ・各校における小中連携の取組や課題を明確化し、改善の方向性を確認した。 ・教職員の相談件数が増え、メンタルヘルスのケアにつながった。			担当課		
			総合教育センター		

●課題

- ・教職員の研修講座の充実を図るとともに、自主研究活動が更に広い領域で実施されるように、充実・推進していく必要がある。
- ・小中の連携においては、「教職員の交流」を推進し、お互いの学校状況を理解し合う必要がある。
- ・研修施設として、図書や教材等の更なる整備と、活用を促進する企画が大事である。
- ・総合教育センターの担う役割に応じた人員の確保が必要である。

難易度:A		
達成度		

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・耐震化事業については、平成28年度までに完了する計画で進んでいる。その他教育施設の環境整備については、老朽度と緊急度を考慮し、順次改修を進めている。また、当初予想していなかった緊急性の高い工事については、補正予算により対応している。学校施設の整備については、各施設の格差是正に向け限られた予算内での努力はしているが、充実しているとはいえない。環境整備の予算確保が望まれる。</p> <p>・総合教育センターにおける研修講座の充実を図るなど、各種の研修機会の提供により、教職員の資質能力のさらなる向上を図ることが重要である。</p> <p>・小中連携教育の推進を図るため、教職員の情報連携・行動連携を一層推進することが必要である。</p> <p>・特色ある学校づくり・地域に信頼される学校づくりのために、ふるさと納税から学校づくり応援事業の予算措置を行い、小特別支援学校200千円、中学校300千円を基準に有効に執行できた。</p> <p>・学校評議員制度・学校評価・学校関係者評価を大いに活用し、PDCAサイクルで学校運営の改善を図っている。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>・教職員の資質能力の向上については、課題があるように思われる。自己評価も厳しくされているので、今後、充実を図っていただきたい。特に、他市では、教職員の不祥事が問題になることが多いので、予防策の検討も必要であろう。</p> <p>・小中連携教育の推進を図る為、今後カリキュラムを含め、具体的な対策が望まれる。</p> <p>・特色ある学校づくりが進められているのか、より踏み込んだ評価が必要ではないか。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	5	家庭・地域・学校園が一体となった子どもたちの教育の推進
------	---	-----------------------------

実践目標	1	家庭・地域・学校園がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもたちの教育に取り組む												
<p>●取組1 「若い力を正しく伸ばす指導者育成と環境づくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然学校推進委員会、トライやる・ウィーク推進委員会等での地域・学校・PTAの連携 ・全小学校区で、昔遊びやとんど、球技大会等の青少年活動を核とした「かさいキッズふれあい事業」の推進 ・ジュニアリーダークラブや青少年団体連絡協議会のメンバーによる救命救急法の研修会や野外活動の指導力向上研修等の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校・PTAで活動内容を協議し、地域と学校が連携して推進することができた。 ・ジュニアリーダークラブと青少年団体連絡協議会のメンバーによる救命救急法の研修会、野外活動指導力向上研修等を実施し、指導力向上が図れた。 ・各小学校区において、三世代間交流や地域の祭り、球技大会など、地域で子どもを育てる行事の活性化が図れた。 ・若い世代のグループが自主的に活動を計画し、継続的な活動ができるようになっている。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやる・ウィークにおいては、適切な事業所の確保が必要である。 ・スポーツ少年団や塾など、他の団体との行事が重なり、子ども全員の参加が難しい。 ・青少年活動を推進するために、指導者育成に重点をおいた取組が必要である。 		担当課												
		自己実現サポート課												
		難易度:B												
		達成度												
		<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> </table>												

実践目標	2	多様な体験活動の工夫による青少年育成活動を推進する												
<p>●取組1 「青少年育成活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な体験活動を通して、仲間づくりを行い、たくましい身体と豊かな心の育成 ・青少年団体連絡協議会で、活動の情報交換や新春の集いなどの行事企画 ・青年活性化事業として、青年連絡会を中心とした交流会や夏祭りを実施 ・夏休みなど長期休業中の子どもたちへ地域体験活動情報紙「子ども情報紙」を発行 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー教室及び、青少年団体連絡協議会による多様な体験活動を実施し、青少年の仲間づくりとたくましい身体、豊かな心を育てる場につながった。 ・オークタウン加西や兎和野高原など、市や県の施設を利用し、多様な体験活動を展開できた。 ・新春の集いは400名以上の参加によって、盛大に行事を行い交流を深めることができた。 ・交流会等で、市内及び近隣の団体とのネットワークの構築ができた。 ・子ども情報紙の発行により、参加者が増えた。また、それによって講座の数も増えた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の減少に伴い、ジュニアリーダー教室参加者が減少傾向にある。 ・各団体の常時活動する人の数が減少傾向にある。 ・スポーツ少年団や塾など、他の団体との行事が重なり、日程が煩雑になっている。 		担当課												
		自己実現サポート課												
		難易度:B												
		達成度												
		<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> </table>												

実践目標	3	地域と一体となった青少年健全育成活動を推進するとともに、家庭、地域の教育力の向上に取り組む			
<p>●取組1 「学校や青少年健全育成団体の情報交換や合同活動の充実を図り、地域と一体となった青少年健全育成活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成関係団体の連携強化 ・全小中学校で「加西市ネット見守り隊」研修会を開催し、児童生徒及び保護者にインターネット等に潜む危険性を周知 ・青少年に有害な環境の把握と浄化活動 ・健全育成団体が協力し、市民を含めた合同研修会を開催 ・夜間教育相談を新設するなど、教育に関する相談窓口の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成関係団体の連携強化が図られ、中学校区を中心とした連携協力体制が構築された。 ・児童生徒及び保護者が、インターネットや携帯等に潜む危険性を認識することができた。 ・健全育成関係団体の連携事業の推進により、地域の教育力向上につながった。 ・年間に1,750件を超える相談に対応するなど、相談機関の充実が図れた。 ・小中学校で薬物乱用防止教室を開催し、予防教育を充実させた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年体験活動等の充実を図るとともに、その指導者の育成を行うことが必要である。 ・「加西市ネット見守り隊」の活動が、さらに充実するように関係機関・団体との連絡会等を行う必要がある。 ・家庭の教育力を向上させるための方策について検討し、関係団体と連携した取組を行うことが大切である。 ・家庭教育に関する情報提供を全保護者に徹底して行い、家庭教育の向上につながることを望まれる。 		担当課			
		学校教育課 総合教育センター			
		難易度:B			
		達成度			

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・「加西市ネット見守り隊」の啓発活動及び研修会により、児童生徒及び保護者が、インターネットや携帯等に潜む危険性を認識することにつながった。今後は、市民への啓発が重要である。</p> <p>・青少年活動を推進するためには、指導者育成に重点をおいた取組が必要である。そして、指導者育成の取組によって、地域の教育力向上につながることが望まれる。</p> <p>・全小学校区で、「かさいキッズふれあい事業」を推進し、昔遊びや球技大会等、地域での活動をとおり、青少年育成活動の推進が図れた。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>・様々な取り組みが、着実に進められていると評価できる。</p> <p>・トライやる・ウィークの事業所の確保は、数年前から課題となっているが、どのように改善を図っていくのか、その方策を明確にしてほしい。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	6	市民だれもが生きがいをもって地域社会に参画する生涯学習社会づくりの推進
------	---	-------------------------------------

実践目標	1	市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進める											
<p>●取組1 「社会教育・生涯学習の仕組みの整備充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい社会教育・生涯学習のあり方や仕組みづくり構想の策定 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育行政推進計画を90%策定できた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進計画に基づき、生涯学習推進体制づくりの促進を図ることが今後の重要課題である。 		担当課											
		自己実現サポート課											
		難易度:B											
		達成度											
		<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>											
<p>●取組2 「社会教育・生涯学習の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育・生涯教育の拠点としての公民館の機能の充実と条件整備 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズや社会課題に応じた公民館主催講座を54講座開催し、延402回、延7,432人(昨年度比123%)の利用があり、新規利用の増加につながった。 ・学習成果イベントとして公民館まつりや伝統文化芸能祭を開催し、延8,000人を越える参加があった。 ・HPで公民館活動について情報発信し、年々アクセスが増え、本年度は2万アクセスを越える利用があった。よりわかりやすいものにリニューアルを検討し、来年度公開予定である。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した公民館登録グループの社会貢献活動調査の結果をもとに、学習の成果を地域へ活かす方法や社会貢献について検討した。今後全てのグループが積極的に社会貢献活動に取り組めるよう支援していきたい。 ・市民のニーズに合った公民館講座の検討が求められる。 		担当課											
		自己実現サポート課											
		難易度:B											
		達成度											
		<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>											

実践目標	2	市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進める		
<p>●取組1 「体力づくりや運動能力向上に向けた指導體制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興に繋がる指導者の育成 ・スポーツ普及とスポーツレクリエーションの振興 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会(スポーツ吹矢・ショートテニス講習会) 2回開催した。 <p>講習会の実施により、スポーツの振興にスポーツ指導者が不可欠であるという認識を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町親善ソフトボール大会及び体育大会参加者数 2,763人 <p>市民で構成された競技団体がそれぞれで教室や大会を行うことで、市民同士のつながりが深まった。</p>		担当課		
		自己実現サポート課		

<p>●課題</p> <p>・家庭、地域が子供たちを守り育てようとする意識を継続的に醸成することが重要で、今後中高校生も参加できる行事内容の見直しが必要である。</p>	<p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「スポーツ団体の育成」</p> <p>・体育協会登録団体及びスポーツ少年団が主催する大会の支援</p> <p>●成果</p> <p>・競技団体登録者3,996人。</p> <p>各競技団体が事務局を設けることで結束力が高まり、有効なスポーツ振興を行えるようになった。</p> <p>●課題</p> <p>・体育協会の活動を促進するためには協会の事務局を行政から独立させることが必要である。また、スポーツ振興を担う団体として、体育協会の組織を強化する必要がある。</p> <p>・ライフステージに応じたスポーツ機会の拡大と、地域スポーツ環境の整備に向けた取組の推進が必要である。</p>	<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p> <p>難易度:A</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組3 「体育施設環境整備の促進」</p> <p>・学校体育施設の開放</p> <p>小学校11校、中学校4校、特別支援学校1校の計16校のグラウンド、体育館、武道館を開放</p> <p>・体育センター等スポーツ施設の効率的な維持運営と整備</p> <p>●成果</p> <p>・学校体育施設利用者数 218,999人。</p> <p>・体育センター等スポーツ施設利用者数 80,686人。</p> <p>施設を整備することにより、また、備品を購入することにより、適切な施設の管理運営ができた。</p> <p>●課題</p> <p>・平成18年4月より指定管理者制度の導入により、効果的・効率的な管理運営に努めているが、指定管理期間の切れる次期選定時の選定手法等の検討が必要である。</p> <p>・建設後長期間を経ている施設の大規模改修等も視野に入れた検討も必要となってきた。</p>	<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組4 「地域スポーツ活動の推進」</p> <p>・スポーツクラブ・スポーツ少年団の育成と自主活動の促進及びスポーツ人口の底辺拡大の推進</p> <p>●成果</p> <p>・スポーツクラブ21参加者数 1,180人。</p> <p>スポーツクラブ21地区交流大会開催により複数の種目が用意され、幅広い年齢層や様々な競技レベルの人たちと交流ができた。</p> <p>・スポーツ少年団員数634人。</p> <p>スポーツ少年団に対して補助を行うことにより、団体の円滑な運営・事業推進が図れた。</p> <p>・スポーツ意識調査の実施。</p>	<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p>															

地域スポーツ活動の状況とその課題を明らかにすべく、住民を対象にスポーツ意識調査を実施した。(4,500サンプル)

●課題

- ・クラブの円滑な運営や活動を支えるクラブリーダーの育成が必要となってきた。

難易度:A

達成度

実践目標	3	文化・芸術活動の推進、文化の薫り高い環境の整備充実を図る															
<p>●取組1 「市民文化祭等の開催による地域文化力の発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の開催をとおして市民文化交流の促進・地域文化力の向上 ・文化連盟および同連盟傘下協会による企画調整と運営促進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第45回文化祭 参加者人数 1,873人 入場者数 3,147人。 ・美術公募展・文芸祭の開催内容を見直した。 <p>美術公募展および文芸祭の募集要項記載内容を見直した。</p> <p>文芸祭の展示を廃止し、作品集の作成に重点をおいた。</p> <p>文芸祭作品集の作成に美術家協会の協力を得た。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催内容の適宜見直しが必要である。 ・活動経費の確保が求められる。 		<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p> <p>難易度:B</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「文化団体の自律的活動の支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟加盟団体等の文化団体の自主的活動を支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東播磨文化団体連合会主催事業(6事業)へ参加した。 ・文化連盟に約 800人が登録している。 ・文化連盟加盟団体自主事業を年間約40回開催した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体構成員の高齢化対策が必要である。 		<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p> <p>難易度:A</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	4	豊かな歴史文化遺産の保存と活用に市民協働で継続的に取り組む
<p>●取組1 「文化財保護活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財審議委員会の2回開催と指定文化財整備活用 ・地域、学校教育への文化財出前講座等の開催 ・埋蔵文化財包蔵地の周知と開発計画との調整 ・文化財保存会等の活動支援 ・玉丘史跡公園の効率的な管理と運営 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財審議委員会を2回開催し、市指定文化財が1件増えた。(総数47件) ・文化財出前講座・見学会等の開催し、小学校3件174名、教員3件13名、団体6件86名が参加した。 ・遺跡地図を1冊刊行した。埋蔵文化財と開発計画の調整事務を150件、立会調査を4件、確 		<p>担当課</p> <p>自己実現サポート課</p>

<p>認調査を5件、それぞれ実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存会等へは、活動助成33団体、文化財修理助成1団体の補助金助成を行った。 史跡公園(指定管理)の来園者数30,600人(前年比18%増)で、イベントを2回開催した。(延べ81人) <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の整備及び観光資源化への取組(看板設置、情報発信、ルート設定等)が求められる。 学校教育との連携(出前講座等の充実)が求められる。 			
<p>●取組2 「歴史文化遺産の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> 未指定文化財の再評価 埋蔵文化財整理室等の活用 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 未指定文化財の再評価のため、戦争遺跡測量調査1件、神社瓦調査1件を行った。 埋蔵文化財整理室活用のため特別展1回と常設展1回を実施した。(来室者数448人(前年比74%増)) <p>文化財サポーター(ボランティア)を設立し、研修会1回を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」を推進するため、実行委員会を設立した。 <ul style="list-style-type: none"> 文化遺産継承事業4件、市村子供太鼓教室等延べ633人、芸能フェスティバル1回開催、人材育成事業1件、語り部養成講座5回延べ50人、体験事業1件(ミニ石仏づくり10回延べ89人)情報発信事業2件、ガイドブック・マップ作成等の事業を実施した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 未指定文化財を条例改正等で地域文化財として位置づける法的整備が必要である。 文化財サポーター(ボランティア)活動の活性化が必要である。 	担当課		

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習・社会教育行政推進計画の策定がほぼ終了し、市民を主体とした生涯学習社会実現のための仕組みづくりの基礎ができた。 体育施設指定管理者の管理運営状況を把握し、円滑な運営が行われている。 スポーツクラブ21の交流イベント等の成果が上がっているが、次世代リーダーの育成が急務である。 文化・芸術活動については、参加構成団体の状況に合わせた内容に適宜調整し実施できている。 文化財保護活動の推進と歴史文化遺産の活用については、着実に実施できている。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習、スポーツ活動、文化、芸術活動、文化財保護活動など、着実に進められている。 行政(教育委員会)主導から民間団体、自主組織に任せて行くことが必要である。 文化財の指定については、全市的な対象の把握と、年次的な調査の計画表を作成することなどが必要と思われる。 	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	7	教育予算の拡充及び教育委員会機能の充実
------	---	---------------------

実践目標	1	教育予算の拡充に努める							
<p>●取組1 「予算編成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会予算編成時での市長と教育委員との意見交換の実施 ・予算編成時において、学校現場の意見を反映し、次年度予算を確保 ・耐震化事業では、事業の前倒し補正予算を利用し、起債等で有利な交付金措置を受けて工事を実施、改修工事についても計画的に予算要望 ・当初予測していない緊急性の高い工事が必要となった場合は、補正予算で対応 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会予算編成について、市長と教育委員との意見交換を行い、予算確保につながった。 ・平成23年度6月補正で、木造校舎の応急耐震補強工事費を確保した。平成23年度3月補正で、平成24年度施工の北条中学校・日吉小学校体育館耐震補強工事の予算を確保した。 ・改修工事費については、ほぼ要求どおりの予算が確保できた。 ・備品購入費については、補助金を利用し、要求どおりの予算が確保できた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算確保については、学校現場・施設の状況を把握し要望額を出しているが、その額どおり確保できることは少ない。そのため、交付金等を有効に使い、要望額に近づくよう努める。 ・学習に適した環境整備や安全確保のため、学校現場の意見を反映し優先順位を見極め、計画的な予算確保に努める必要がある。 ・耐震化事業においては、計画的に進めており、今後も事業の前倒しに伴う補正予算を利用し、工事を実施して行く。 			担当課						
			教育総務課						
			難易度:B						
			達成度						
			<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> </table>						

実践目標	2	教育委員会の機能の充実と活性化を図る							
<p>●取組1 「教育委員会の運営」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員による施設訪問、教育関連予算の関与、研修と情報交換 ・定例・臨時教育委員会の開催 ・定例教育委員会及び議事録の公開 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会所管の施設について、格差是正のための施設訪問を実施した。 ・教育委員の計画訪問を行うとともに、研究発表会等へ参加し、現状把握に努めた。 ・教育委員会連合会などの会議・研修会へ参加し、研修と情報交換を行った。 ・教育委員会評価を実施した。 ・定例教育委員会を公開するとともに、議事録をHPで公開した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修・会議等に参加することで、教育委員会の課題認識及び運営手法について知識を深め、教育委員会と事務局の機能充実と活性化を図る。その成果を市民に広報することが、今後の課題である。 ・教育委員会は合議制執行機関であるが、合意形成のあり方にはさらに工夫が必要である。 			担当課						
			教育総務課						
			難易度:B						
			達成度						
			<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> </table>						

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・予算の確保については、要望額どおりには確保できていないが、少しずつ改善されている状況である。耐震化事業については、喫緊の課題であり、補正予算を有効に利用し執行できている。 ・今後も市長と教育委員で予算要求に関わる意見交換を実施することなどを通して、教育予算の拡充に努めることが重要である。 ・教育委員会の実施については、開催日の事前公表・会議の公開及び、議事録の公開を実施しており開かれた委員会を進めている。また、施設訪問・計画訪問・研究会・研修会等多くの事業に参加することで自己研鑽を行っている。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	やや不適
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会予算編成について、市長と教育委員との意見交換が行われた点は、重要であり、評価できる。 ・取り組み1の中で教育委員会及び議事録の公開 となっているが 平成23年度第6回議事録より討論をした人の氏名が書かれていない。明らかに加西市教育委員会会議規則20条違反であると思います。よってこの項目は不十分と言わざるを得ません。 ・昨今全国で教育委員会批判の世論を鑑みても、定例会のみならず 会議の全て(人事案件除く)は公開すべきであると考えます。又発言者の氏名が無くなった時期と教育長が変わられた時期が一致するところが、非常に気になります。 	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

総合コメント

平成23年度教育委員会点数評価において昨年度と比べ、進歩したことが感じられます。しかし、せっかく課題が明確にされているのなら次年度へのアクションが明記されていればP D C Aが判りやすいと思います。

今年は平成24年教育の重点が平成23年度の課題に対してのアクションとなります。少子高齢化が進む加西市を他市に負けない特色を出して住みよい街づくり、人づくりをお願いします。

全国的に教育委員会の是非が問われている中、今回の評価委員会に教育委員の皆様が、出席頂けた事は良かったと思います。又評価を難易度・達成度と言うマトリックスで見える化出来た事は素晴らしいと思います。もう一步望むとすれば、具体的な目標そして取り組みと結果を明確にして頂ければ評価しやすいですし、教育委員会自己評価の所は、教育委員さん自らご説明頂ければありがたいです。

教育委員会が「政治的影響を受けず教育行政を決定していく」と言う法の趣旨に依れば、教育委員会の重要性・透明性は益々高まるものと思われます。定例会のみならず、臨時会も公開すべきものと思われます。

今回の評価の中で各項目に、小中連携を進めると言う事が出てきますが、実践目標としては挙がっていない為、掛け声倒れになる可能性があります。

前回の評価でも書かせて頂きましたが、今後の教育行政の大きな課題である将来に向けた学校統廃合問題や教育カリキュラム改訂問題（学校のあり方検討委員会の答申書H23年7月）が議論されたかどうか外部から確認できない状態は、教育委員会の根幹にかかわる問題と考えます。

教育委員会の運営能力を高める為、この点検評価を通じP D C Aを廻して頂き、教育委員長主導の下、全国に誇れる教育委員会を創って行って欲しいです。

困難度についての内部基準が必要と思われる。（新規企画の初年度の困難度は高く、実施年度が進むにつれて困難度は低くなるなど）また、県教育委員会の事業を実施することより、市独自の事業を実施することの方に評価のウエイトは置くべきである。

評価、点検の進め方について、評価委員の意見を参考にして、毎年、改善が図られていると思います。年々、評価の概要が理解しやすくなっています。

評価項目について、例えば、重点目標2の内容と重点目標4実践目標2の特色ある学校園づくり、開かれた学校園づくりの内容とは、密接に関連すると思われますが、評価項目の相互関連について、検討することが必要であるように思われます。

加西市教育振興基本計画も策定され、市のビジョンを持って、中、長期的な視点からの取り組みが、いっそう求められると思われます。したがって、市のビジョンや重点的な事業、特色が、この評価、点検において、もっと意識して、議論できるようになることが必要であるように思われます。市の取り組みの特色、市として重点的に取り組んでいることが、明確になり、それに対する評価が適切に行われるならば、いっそう、市民にも理解されるようになるのではないかと思われます。そして、この評価が、次の施策、予算確保に活かされるための工夫も必要であると思われます。ご検討いただければと思われます。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々には評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
京都教育大学 教授	竺沙 知章
兵庫教育大学 教授	日渡 円
保護者代表(連合PTA顧問)	内藤 和之
加西商工会議所(副会頭)	濱本 泰秀